

目指す学校

○学ぶ喜びのある学校 ○挨拶が飛び交い歌声が響き合う明るい学校 ○安全安心で生きがいと行きがいのある学校
○新たな教育の実践事実を生み出す創造的な学校 ○保護者に信頼され、地域に応援される特色のある学校

加護坊山全校遠足を終えて

今年(2025年)は、昭和がずっと続いていたら昭和100年になります。昭和・平成・令和と元号が変わり、世間の「常識」も大きく変わりました。例えば『技術・家庭科』という教科は、私が中学生だった昭和55年(1980年)頃は、男子は技術、女子は家庭科と別々に学習していました。家庭の仕事は女性が分担するものという考え方が依然と強くありました。平成5年(1993年)に中学「技術・家庭科」の授業は男女共修となり、教科書でも「男女の協力」・「男女平等」がかなり強調され、共働き家庭が増えました。令和の現在は、少子高齢化とライフスタイルの多様化にあわせて、内容も「私とはなにか」「どのような人生を生きるか」という個人の自立が大きくクローズアップされているそうです。SDGs、環境問題、消費者教育、金融教育、高齢者社会等も新たに学習に加わりました。

社会の変化にあわせて、学校から消えてしまったものがあります。例えば、「はだ色のクレヨン」。学校で使っているクレヨンに今は「はだ色」はありません。クレヨンに巻かれた紙には「うすだいたい」と書いてあります。他にも、男女別の名簿や父兄席表示(今は「保護者席」が一般的)なども見なくなりました。運動中の飲水禁止やうさぎ跳びトレーニングなどは以ての外です。

おじいさんやおばあさん、お父さんやお母さんが子供だった頃と、今の子供たち、これからの子供たちの学校はますます大きく変わっていくことでしょう。それでも大事にしたいもの、残していきたいものがあると強く感じさせられた1日がありました。沼部小学校には、今年で75年目、保護者や地域住民の協力もあり、昭和・平成・令和と脈々と受け継がれてきた伝統行事があります。それは全校遠足です。全校児童180人が列を作って、目指すのは学校から7キロ離れた加護坊山です。縦割り班ごとに、稲穂が黄金色に実った田んぼの中をしりとりなどしながら、途中下級生に疲れが見え始めると、上級生がリュックを引き受け一緒に手をつなぎ励ましながら山頂を目指します。出発から約2時間半。標高224メートルの山頂に、全員元気よく到着することができました。児童・教職員がみんなで同じ感動と喜びを味わい、学校がより一つにまとまった気がします。児童の中には3世代、なかには4世代にわたり加護坊山遠足を経験している家庭もあり、家族や近所の人との共通の話題になるなど、地域の一体感にも繋がっています。とは言っても、この行事を支える教職員の負担増など継続に伴う課題も増えてきました。地域の宝である子供たちのために、保護者や地域のサポートをいただきながら、地域とともにある学校づくりに、より一層取り組んでいきたいものだと感じています。

